

第【1】学年 【 家庭 】科学習指導計画

月	単元名	小単元・目標	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 規 準		
				技能・知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	健康と食生活	- 自分の食生活を振り返り、課題を見つけることができる。 - 食事の役割を理解し、健康に良い食生活について考えることができる。 - 栄養素の種類と働きについて知る。 - 中学生の時期に必要な栄養の特徴を考えることができる。	- 食事をとる理由について考え、発表する。 - 食事の役割をまとめ、理解する。 - 栄養素の種類と働きや水の働きについて知る。 - 栄養素カルタやスゴロク作り。 - 食事摂取基準について理解し、中学生に多く必要な栄養素についてまとめる。	- 自分の食生活を見直し実生活で活かすことができる。 - 食事の役割を理解する。 - 食品にふくまれている栄養素の種類とはたらきについて理解できる。 - 食事の役割を理解する。 - 食品にふくまれている栄養素の種類とはたらきについて理解できる。	- 健康的な生活を送るために食事の取り方を工夫しようとしている。 - 自分が食べた食事に含まれている栄養素の問題点と良い点を考えようとしている。 - 学習したことをもとに、工夫した栄養素カルタを作成することができる。	- 食生活に関心を持ち、食事の役割について考えようとしている。 - 栄養素のはたらきについて関心を持ち、積極的に調べることができる。 - 学習したことを、実生活に活かし、自分の食習慣や生活習慣を見直すことができる。
6 7	何れだけ食	- 身近な食品の栄養的な特徴を知る。 - 身近な食品を6つの食品群に分類できる。 - 食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量がわかる。 - 必要な栄養素をみたとす1日分の献立を考えることができる。	6つの食品群と食品群別摂取量のめやすについて理解する。 - 身近な食品を6つの食品群に分類する。 - 朝食メニューを考える。 1日分の献立を考える。	- 中学生の時期に必要な栄養素の特徴を理解できる。 - 食品を栄養的な特徴によって分類できる。 - 献立をたてる手順やポイントを理解している - 食品成分表を利用することができる。 - 栄養的にバランスのとれた一日の献立をたてることができる。	- 自分に必要な栄養は何か考えようとしている。 - 栄養的にバランスのとれた献立を工夫しようとしている。	- 中学生の時期の栄養の特徴について進んで理解しようとしている。 - 食品にふくまれている栄養素に関心をもっている。 - 日常の食事に関心をもち、意欲的に適切な献立を考えている。

9	べ た ら 良 い か	・生鮮食品と加工食品の特徴と品質の見分け方について理解できる。 ・状況に応じた食品の選択や利用ができる。 ・食品の表示や添加物について理解できる。	・生鮮食品と加工食品の特徴を知る。 ・身近な食品の品質を見分けることができる。 ・食品の表示やマークについて理解する。 ・食品添加物について理解する。	・食卓にのぼるまでの流れが理解できる。 ・生鮮食品の特徴と種類が理解できる。 ・加工食品の目的や種類を理解できる。 ・食品の表示の意味や食品添加物の使用目的や問題点について理解できる。 ・食品表示を見て適切に食品を選択することができる。	・加工食品の利用方法を考えようとしている。 ・加工方法から食品を分けることができる。	・それぞれの食品の長所をいかした利用を生活の中で心がけようという意欲を持っている。 ・食品の表示を積極的に調べようとしている。
10 11 12	調 理 と 食 文 化	・安全と衛生に気をつけて、調理することができる。 ・食品の調理上の性質を知り、適切に調理することができる。 ・調理器具を安全に正しく使うことができる。	・安全と衛生に気をつけて、調理する。 ・食品の調理上の性質を知り、適切に調理する。 ・実技試験	・食品の調理上の性質について理解している。 ・安全と衛生に留意して食品や調理用具などの適切な管理ができる。	・調理の手順や時間を考えて計画したり工夫したりしている。 ・食品や調理の特徴を理解し、アレンジメニューを考えることができる。	・調理に関心をもち、調理技術を習得しようとしている。 ・安全に留意して調理器具を扱うことができる。
1 2 3		・地域の食材を生かした日常食などの調理ができる。 ・地域の食文化について理解できる。	・地域食材のよさについて考える。 ・地域の食材を生かした日常食などの調理をする。 ・地域（亀山・三重県）の食文化について理解する。	・地域の食材を用いることの意義について理解している。 ・地域の食文化の意義について理解している。 ・地域でとれる食材やそれを利用した調理について理解している。 ・地域の食材とその活用方法や郷土料理、行事食について調べまとめる。	・地域の食材を生かした日常食などの調理を工夫することができる。	・地域で取れる食材について調べようとしている。 ・郷土料理や行事食について調べようとしている。 ・地域の食材を生かした調理に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。

第【2】学年 【 家庭 】科学習指導計画

月	単元名	小単元・目標	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 規 準		
				技能・知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	住生活と自立	・住まいのはたらきを理解する。 ・日本の住まいの特徴を知る。	・住まいの役割や基本的な機能について考える。 ・日本各地の住まいの特徴を考える。 ・住まいの中で行われる生活行為を考える。	・気候や風土に合った住まいを考えることができる。 ・住まいの基本的な機能について理解する。 ・気候や風土のあった住居が理解できる。	・自分に合った住空間を考えようとしている。	・住まいに関心をもち、住まいの働きを考えようとしている。 ・家族の生活と住まいのかかわりについて関心を深めようとしている。
5		・家族と住まいのかかわりを考える。 ・生活行為と住空間と関係を理解できる。 ・安全に住むにはどうしたらよいかを考える。 ・安全な住み方の工夫ができる。	・健康で居心地よく住むための室内環境の条件を知り、改善方法を考える。 ・家庭内事故の起きやすい場所や原因と対策を考える。	・生活空間と住空間に分けることができる。 ・健康で快適な住み方に必要な基礎的な技能を身に付けている。 ・生活行為と住空間の関係について理解できる。 ・快適に住むための条件や方法がわかる。	・家庭内の事故防止の工夫を考えようとしている。	・家族の健康を考え、心地よく住むための条件を考えようとしている。 ・自分の住まいの問題点を見直し、具体的に改善する方法を考えようとしている。
		・よりよい住み方を考える。	・さまざまな人の立場にたって、心地よく住むために出来ることを考える。	・安全に住むための室内環境を理解することができる。	・さまざまな人の立場にたった住み方を工夫できる。	・暮らしやすい住まいにするために課題を持ち解決への意欲を持っている。
6 7		・家族が暮らしやすい住まいを考え、デザインすることができる。	- 夢のマイホーム作成 ・家族が暮らしやすい住まいを考え、デザインする。	・快適な住まいをデザイン(間取り図を書く)することができる。 ・快適な住まいに必要な、安全面・衛生面での条件を理解することができる。	・快適な住まいになるよう、様々な工夫を考えることができる。	・作品製作に意欲的に取り組む。
9 10		・衣服の働きについて知ることができる。 ・洋服と和服の違いを理解し、和服の文化を伝えることの大切さに気付	・衣服と社会生活とのかかわりを踏まえ、衣服の社会生活上の働きを理解する。 ・衣服の目的に応じた着方や個性を	・衣服の社会生活上の機能について理解している。 ・衣服構成や洋服、和服の特徴が理解できる。	・目的に応じた着方を考え、工夫している ・衣服と社会生活のとかかわりを考えながら、個性を生かした	・衣服と社会生活とのかかわりに関心をもち、時、場所、場合に応じた衣服を着用しようとしている。 ・洋服と和服の違いについて関心を

	衣生活と自立	くことができる。	生かした着方を考える。 ・洋服と和服の違いを理解し、和服の文化を伝えることの大切さに気付く。		着方について工夫している。 ・自分らしさを衣服で表現する着方について考え工夫している。	もって調べようとしている。 ・世界のさまざまな地域の衣文化に関心をもって取り組もうとしている。
11		・衣服の材料や状態に応じて適切な手入れができる。	・衣服の材料や状態に応じて適切な手入れの方法を理解する。	・手入れの必要性や布の性質、汚れの種類とその特徴について理解している。 ・適切な手入れをすることができる。	・衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修などの手入れについて考え工夫している。	・日常食の手入れに関心を持ち洗濯や補修の課題に取り組もうとしている。
12		・環境や資源に配慮した衣生活をおくるための課題を見つけることができる。	・自分の衣生活を振り返り、環境や資源に配慮した衣生活を送るための課題をみつけ、自分にできることは何かを考え実践できる。		・衣服の生産から廃棄までの流れについて自分にできることを考え工夫している。	・衣生活と資源や環境のかかわりについて考えようとしている。
1 2 3	生活を豊かにするために	・製作に必要な技能について知り、安全に製作することができる。 ・製作に必要な知識と技能を身に着けることができる。 ・製作に意欲的に取り組み、完成させて、活用することを通して生活を豊かにすることができる。 ・目的に応じた縫い方や用具の安全な使い方を理解できる。	【被服実習】 ・製作に意欲的に取り組み、完成させて、活用することを通して生活を豊かにする。 ・目的に応じた縫い方や用具の安全な使い方を理解できる。 ・製作に意欲的に取り組む。 ・オリジナルな作品にするための工夫をする。	・基本の玉結び、玉止めができる。 ・手縫いで正しく美しく縫うことができる。 ・器具を正しく使うことができる。 ・製作に必要な用具の種類や使い方がわかる。 ・布の方向がわかる。 ・様々な縫い方(ステッチ)がわかる。 ・出来上がるまでの工程が理解できる。	・工夫したオリジナルのデザインを考えることができる。 ・効率の良い作業順序を考えようとしている。 ・出来上がりを美しくするために縫い方や縫い目を工夫している。	・製作に関心を持っている。 ・製作に必要な用具を準備している。 ・意欲的に製作をしようとしている。 ・準備、後片付けがスムーズに行える。 ・計画通りに進んでいる。

第【 3 】学年【 家 庭 】科学習指導計画

月	単元名	小単元・目標	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 規 準		
				技能・知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	幼 児 の 生 活 と 家 族	・幼児期を振り返ることができる ・自分の成長を振り返ることによって家族や多くの人々に支えられてきたことに気づく	・自分の幼児期を思い出したり、身近な幼児に目を向けてみる	・自分の幼児期をふり返り、多くの友達にそれを紹介できる ・自分の幼児期について思い出し、どれだけ多くの人に支えられ成長してきたのかが分かる	・自分の成長には多くの人が関わっていることに気づく	・自分の幼いころについて思い出し、自分を支えてくれた家族やそれに関わる人々の気持ちを考えようとしている
6		・幼児の心身の発達の特徴を知ろう ・幼児期の体の発達の特徴を理解することができる。	・幼児期の発達の特徴を知り、一人一人に個性があり、発達には個人差があることに気づく ・幼児の基本的生活習慣と社会的生活習慣の習得について考える	・幼児の発達過程順に並べることができる ・幼児期の運動機能、生理的機能の発達について理解できる ・発達に個人差があることを理解できる	・自分の成長過程を振り返ることができる ・保育体験で身に付ける工夫した名札を作成することができる。	・幼児期の体の発達について関心をもち、意欲的に学ぼうとしている ・保育体験に向けての準備物を丁寧に作成できる。
7 8 9		・幼児の生活と遊びを知ることができる ・幼児にとっての遊びの意義について考えることができる。	・幼児の遊びの時間や遊びの意味を考える ・幼児の遊びにはどのようなものがあるのか考える	・遊びの種類によって育つ能力が分かり、友達同士で関わって遊ぶことの大切さを理解する	・安全で興味が持てる楽しいおもちゃを考えようとしている	・幼児の遊びどのようなものがあるか意欲的に考えようとしている ・幼児の遊び場について考えようとしている
		【夏休み課題】 ・遊び道具製作	・保育体験に持参する身近な素材を使ったおもちゃをつくる	・遊びと心身の発達について、整理することができる ・発達年齢に応じたおもちゃを製作できる	・おもちゃ製作において、幼児の発達段階を考え、興味関心や安全性について考え工夫している	・保育実習に関心をもっている。 ・幼児のおもちゃづくりに関心をもっている

10		・体験学習をととして課題を持って幼児と直接かかわることができる	・幼児の遊び場所と危険性を考える ・幼児を支援する様々な施設や整備を知る ・保育施設での保育体験活動	・幼児への言葉がけを工夫している ・幼児との適切なかかわり方が分かる ・幼児の一日の活動と気持ちなどが理解できる ・幼児との触れあいを通して、幼児の生活習慣や遊び、関わり方が理解できる	・幼児の遊びを年齢や遊びの種類に応じて工夫しようとしている ・幼児と関わるための準備や幼児と関わる時の配慮ができる ・体験を通して学んだことを生活に活かすことができる	・幼稚園の先生方のアドバイスを参考に幼児とのかかわり方を工夫しようとしている ・保育体験に向けての、目標や体験後の成果と課題について、自分なりにまとめることができる
11		（幼稚園訪問の計画→体験・観察→評価・反省の体験レポート作成）				
12		・幼児のおやつを工夫することができる ・間食の大切さを考え、幼児にふさわしいおやつをつくることができる	・幼児のおやつや離乳食の特徴を考える。	・安全や衛生に配慮した調理案を提案し、発表することができる	・幼児が喜ぶおやつや離乳食を提案することができる	・幼児の食事について関心を持ち、年齢に適した食事の工夫や調理法について考えることができる
1 2 3	消費生活と環境	・消費者として自覚を持つことができる ・販売方法と支払い方法を理解できる ・消費者トラブルの種類を知る ・消費者トラブルの解決方法を考えることができる ・消費者の権利と責任について知る	・販売方法や支払い方法を知る ・消費者トラブルの例を考える。 ・ロールプレイングで体験する。 ・自分の消費生活の課題に気づき、解決方法を考える	・消費者被害の背景とその対応について理解できる ・消費者の権利と責任について理解できる	・学習したことを活かし消費者トラブルを防ぐ工夫した標語を作成することができる ・消費トラブルに合わないため対策や撃退法を考えることができる	・消費者被害への対応について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・ロールプレイングに積極的に参加することができる